



「着実に前進」の年にしましょう

2012年、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく願い致します。

さて何を隠そう、私は今年「年女」。普段縁起など全くかつかないものの、「年男と年女にはツキがある」という話を聞くと、たまにはいいことがあるかな～？などと、淡い期待めいた気持ちを持ってしまう。…が、12年前、24年前…と記憶を辿ってみるに、そんなに期待してはいけないのだ、とすぐさま現実に戻されてしまいますが（笑）。

むしろ他力本願的に欲張るのではなく、自分の気の持ち方を変えてみるといいかもしれないですね。例えば、これまで大過なく過ごせているだけでも充分有り難いことなのだ。あるいは、今こんな世の中ゆえ、普通に生活していれば御の字じゃないか。そんな気持ちを持って前向きに着実に進んでいった方が、何かにつけて小さな幸せを見つけやすいのでは、と思うのです。

年男や年女だけでなく、人生にはいくつかの節目があるものですが、私の場合遊技業界に入って仕事を始めてから、遂に丸20年以上経ってしまったのだ…と、改めて実感しています。その間、パチンコ専門誌の仕事を中心に、新聞や週刊誌、インターネット、さらにはなぜか農業雑誌からお声が掛かり、コラムや取材記事を書きつつ、数冊の本も出すことができました。また、時には業界への就職を希望される学生さん達の前で、自分の職業についてお話ししたり、主婦向けパチンコ講座の講師もやったことがあります。

こんな風に並べてみると、随分バラエティに富んだ仕事のようにも見えますが、



自分では「同じ仕事を地道に続けて来た」実感しかないのです。それは、根本に遊技という共通テーマがあることはもちろん、自分がライターとして「文章を書いて伝えていく」という基本のルール上を大きくはみ出したり、自分自身を見失ったりしないように心がけ続けていたからではないか、と思います。これもいわば、先ほど書いたような「気の持ち方」ですよ。

2012年は、まだまだ大震災やそれに付随する様々な被害が尾を引く年となるでしょう。何かと気の滅入ることも多い状況ではありますが、そういう時だからこそ足下をしっかりと見つめてガッチリと土台を固め直し、着実に前進する…そんな動きが必要な気がします。特に遊技業界においては、前回も書いた通りファンとの在り方を見つめ直すということが、急務ではないでしょうか。

最後に、私自身の今年のテーマは「勉強する」です。長年の怠惰な自分に喝を入れ、もう一度仕事関係の情報について整理し学び直したい、そして個人的に楽しんでる英語の勉強にも力を入れたい。そういったことを実現していけば、自然と足下も固まって着実な前進ができるのではないかと、思っています。

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。

取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」（バジリコ、07年）